

# 通所介護における地域リハビリテーションの可能性

## ～失語症者への支援の一例～

神奈川県横浜市  
株式会社ケアシステムネットワーク  
地域リハビリデイのぞみ  
管理者 山口 裕輝  
言語聴覚士 ○大谷 智美

### 1 はじめに

我が国の高齢者福祉の問題は、当事者とその家族の問題だけではなく、地域社会全体で取り組まなければならない大きな課題といえる。そのため、これからの高齢者支援として、介護サービスの充実だけではなく、高齢者の健康維持や生きがい支援が重要であり、その事が、介護予防に繋がるといえる。このような介護予防の考え方は、要介護状態になることを出来る限り防ぐこと、また要介護状態であっても、その状態がそれ以上悪化しないようにすることを目的としている。つまり介護予防においては、どのような状態にある者であっても、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及び、その重症化の予防、軽減により、高齢者本人の自己実現の達成を支援することが重要であるといえる。特に、介護予防の取り組みにおいては、生活機能の低下が軽度である時期からの早期発見、早期対応を行う事が有効であるといえる。

この早期発見、早期対応を効果的に行う為には、医療や保健、福祉および、生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力しあって行う活動するという、地域リハビリテーションが有効であるとされている。また、この事は、地域包括ケアシステムの根底を作っているといえる。

当施設は短時間型の小規模デイサービスで、リハビリテーションを目的としている。また、機能訓練指導員として言語聴覚士を配置している。そこで、その立場から地域リハビリテーションに向けた取り組みの事例を報告する。

### 2 事例や取り組みの紹介

【方法】対象者は脳梗塞による失語症で、軽度の右半身麻痺の男性（年齢 53 歳、中等度の混合型失語）である。また、生活保護受給者である。介護度は要支援 2 で、日常生活動作は自立している。

対象者のリハビリテーションの評価は、言語聴覚評価・身体機能評価・行動の変化により行った。言語聴覚評価はスクリーニングテストを使用し、身体機能評価は体力テストを使用し、行動の変化はケアマネジャーからの報告と介護記録や日中の行動を観察し行った。

支援の方法は、週 2 回のデイサービスで、言語聴覚療法・リハビリテーション体育・マシン訓練・ストレッチ体操・嚙下体操を実施。また、デイサービス終了後には、所内の掃除業務（テーブル、イス、マシンの拭き掃除）を実施し。掃除業務を実施するにあたり、法人と請負契約を結び、一回掃除業務を行う毎に 500 円を支払う方法をとった。

言語聴覚療法は、聴覚理解改善を目的とした刺激法と発語失行改善を目的としたジェスチャーを用いた訓練を行った。リハビリテーション体育は集団運動を行い運動機能維持・向上や、他者との交流

を図り社会性の向上を目的として行った。マシン訓練やストレッチ体操、嚙下体操は、身体機能の維持向上を目的として行った。また、掃除業務は社会復帰を目的として行い、実施するにあたり、3か月程通所した後にアセスメントを行い実施した。アセスメント内容は、園芸療法で用いられている、園芸作業遂行特性評価表を参考にして行った。

## 【結果】

### 1) 言語聴覚評価

スクリーニングテストの結果から、換語困難、発語失行、聴覚的把持能力低下、復唱困難があった。しかし、初回利用から3か月後評価を実施したが、数値に大きな改善はみられなかった。

### 2) 身体機能評価

体力測定の結果、ほとんどの項目で記録の向上がみられた。片足立脚に関しては、健常者と同レベルまで記録の向上がみられた。(表.4)

表.4 体力測定実施記録表

	内容						
	握力(kg)	片足立脚(秒)	立ち上がりテスト(回)	ファンクショナルリチ(cm)	ツー・ステップ(cm)	Timed Up & Go(秒)	反応速度テスト(秒)
初期 (H26.7.7)	24.5/45.9	50.8	11	26	154	9.65	10.12
3ヵ月後 (H26.9.25)	31.1/51.9	60.3	14	20	177	9.04	8.10

### 3) 行動の変化

ケアマネジャーからは、通所を利用するにあたり、集団生活になじめるかの不安があると報告があった。理由として、ケアマネジャーが対象者と契約を結ぶ際に、態度が怒りっぽく、上手くコミュニケーションがとれずに終わったエピソードがあったからである。しかし、利用開始してからの訪問時の様子は、以前よりもスムーズにコミュニケーションが取れるようになったと報告があった。また、通所中のエピソードとして、掃除業務を実施するようになってから、通所中に他の利用者の手伝いを行う事や、片付けを自発的に行うといった様子が見られた。他にも、プライベートでは、釣りが趣味であり、受傷後、それまで行っていなかった、漁船に乗り釣りを行った。また、その事を職員に報告するといった行動もみられた。また、その際、職員に対して漁船での釣りを誘う様子もみられた。

### 3 考察

#### 1) 他者とのコミュニケーション

結果から、ケアマネジャーや職員、利用者間での円滑なコミュニケーションがとれるようになった理由として、人と会話することに自身がついたことが考えられる。言語聴覚訓練による効果がテスト上では現れなかったが、言語訓練を受ける事で、本人も他者とのコミュニケーションをとる事に対して自信がついたと考えられる。また、リハビリテーション体育訓練では、言語によるコミュニケーションの代償として、体育・スポーツを使ったコミュニケーションがとれた事も要因として考えられる。他にも、対象者は二号被保険者であり、他の利用者よりも若い、小規模のデイサービスで利用者と職員同士で家庭の様な雰囲気の中で、対象者がコミュニケーションをとり易い環境を作る事が出来た事が、今回の結果に繋がったと考えられる。

#### 2) 地域リハビリテーションの可能性

対象者が、当施設で掃除業務を行うようになってから、通所日外に来所し、釣りをした魚を天ぷらにして、スタッフに差し入れを持ってくるといった事や、ボランティアでデイサービスの手伝いに来るといった行動が出てきた。これは、掃除を行い、金銭を得る事で、対象者自身が社会的な役割の意義を持つ事が出来た事や、職員と一緒に仕事をする事によって、コミュニティの形成が出来た事が考えられる。このように、他人の為に役に立ちたいという気持の現れが、この行動に繋がったと考えられる。また、漁船に乗るといった行動が現れた要因として、体力の向上、特に立位でのバランス能力、歩行能力が向上したことで、漁船に乗る自身がついたのではないかと考えられる。

### 4 おわりに

社会生活を営む上でコミュニケーションは必要不可欠である。特に、失語症者は病院での言語訓練を受けても、退院してから社会の中で実際に話す事に対する不安を取り除く機会が無ければ、社会的孤立に陥り易くなっていく。その様な不安を取り除く場として、デイサービスを利用する事が、地域リハビリテーションの役割であると考えられる。

現在、対象者はデイサービスの中での業務を行っているが、この中で、働く意欲や自信を付けることや、対象者の可能性を見つけることが目的であり、最終的には就労へ繋げる事が今後の大きな課題であると考えられる。